

○4番（石垣 智矢君） おはようございます。石垣智矢です。どうぞよろしくお願ひいたします。本定例会での私の一般質問の内容は、東員駅周辺中心市街地形成についてであります。この内容は先日、同僚議員も質問しておりましたが、また私は違った角度からご質問させていただきたいと思っております。

まず初めに東員駅は2005年、平成17年に六把野駅と北大社駅を統合し、両駅の間へ新設開業した駅であります。開業してから10年以上が経過しておりますが、この地域は市街地調整区域であり、また農用地区域でもあることから開発行為がほとんどできない、そのような地域でありました。しかし、市街地調整区域への編入の可能性が見えてきた今、本格的に中心市街地形成が始まることになり、本町のまちづくりが大きく変わろうとしております。それは東員駅周辺の開発、コンパクトシティ構想です。これは東員駅周辺に住居、医療、介護施設、商業施設、教育施設そして現在ある公共施設、全て歩いていくことのできるコンパクトなまちづくりを目指すものであります。

平成29年9月、東員町都市計画マスタープランが改定されましたが、その中にも随所にこのコンパクトシティ構想が記載されております。もちろんこの事業が実現すれば、高齢者が住みやすく安心して暮らすことができます。また、本町の核となる中心地となるため新しいコミュニティ形成がなされ、活気あふれる地域に変貌を遂げます。本町のまちづくりを根底から変える大きな事業であります。それゆえにお金と時間がかかり、しっかりとした将来設計並びに事業計画が必須事項であると、そのように私は考えております。今後の本町の未来を左右する東員駅周辺の市街地形成について、どのような意見をお持ちであるか伺いたいと思ひます。

それでは通告書に従ひまして質問させていただきます。東員駅周辺中心市街地形成について1つ目、東員駅周辺の市街地形成は、本町の形を変える大きな事業です。どのような将来設計を描き、この事業を進めていくのか。2つ目、東員第一中学校をこの地域に移転することですが、通学路の整備など子どもたちの安全・安心をどのように守っていくのか。3つ目、来年度から新しい窓口を作り進めていくとの説明がありましたが、教育・福祉・農業など各課でどのような連携を図り、この大きな事業を進めていくのかご答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 石垣議員のご質問にお答えさせていただきます。

本町は昨年、町制施行50周年の節目を迎えました。この50年、日本は高度成長社会からバブル経済社会を経て今日に至っております。この間、本町も大きく変わり、大規模団地の造成などにより人口はその当時の約3倍になりました。時代は変わり、日本は今成熟社会となっております。そして日本人が今まで経験したことのない人口が減少する時代に入りました。生活が豊かになったおかげで日本人は長生きできるようになり高齢化が進んでいることは大変喜ばしいことだと思いますが、これまで人生60年で設計されてきた社会制度にはほころびが生じております。同時に少子化の傾向も顕著になってきておまして、これからの地域経営をどうしていくかを含めて、将来へ向けて持続可能な地域社会を築いていくことが私たち行政に携わる者に課せられた大きな任務だと考えております。

本町では、今年は次の50年へのスタートの年と位置付けておりまして、そのための具体的な手を打っていかねばならないと考えております。こうした中、かねてから懸案でありました町の顔となるべき中心市街地形成につきまして、東員駅周辺エリアが市街化地域への編入が可能となるめどが立ってまいりました。この地域は、農業振興地域の農用地であることから、その開発計画は国の規制により難航してまいりましたが、職員が粘り強く取り組み、そのため国・県・関係機関の理解を得られることとなつてまいりました。今回の東員駅周辺から役場地区までの37haの新しい市街地形成では、町民の暮らしや経済活動の中心となるような機能を持つこと、よつて町内外に東員町をアピールできる機能を持つこと、笹尾、城山地域の大規模住宅団地の人の循環を促すことのできる機能を持つこと、既存施設を含めて福祉や医療の拠点としての機能を持つこと、居住空間を整備することによつて赤字経営の続く北勢線の運営に寄与できる機能を持つこと、既存施設を共用活用できるような中学校施設の整備を進めることなど、これからの東員町にとって重要な役割を担う地域整備だと考えております。この市街化区域への編入は、今回の市街化区域への編入を最終的に議論していただく三重県都市計画審議会が来年7月に開催されますことから、それまでに結論を出さなければなりません。こうした時間的な制約があることから、今回は民間開発手法を採用することによつて、今年の初めに積水ハウス株式会社を事業パートナーとして決定させていただきました。これからは、地権者の多い北大社、山田地区を中心に地権者並びに地域住民の皆様のご理解とご協力を得ながら、また町民の皆様のご提案もいただきながら事業者としっかり協力体制を組んで作業を進めてまいります。具体的なことにつきましては、基本的には積水ハウスのまちづくり構想を基準といたしておりますが、町民の暮らしやすさ、東員町のまちとしての特徴をどのように盛り込んでいけるか、我々としてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

民間開発エリアには、商業ゾーンや福祉・医療ゾーンの予定があり、また、第一中学校の移転も考えておりますことから、歩行者の安全の確保は重要な課題であります。今、私たちが考えているのは、駐車場をまとめてどこか1カ所なりに確保することによつて、全体としては地域全体が大変狭いエリアですから、できるだけこの地域内への車の進入を制限して、歩くことを優先させる道路を多く造ることで歩行者の安全を確保したいと考えております。

中学校移転に伴う通学路につきましては、通学路の変更を伴いますことから、教育委員会や学校が責任を持って道路管理部門を入れた中で地域や保護者の皆様とともに、子どもたちの安全確保のため真剣に検討してまいりたいと考えております。この事業は、本町の将来を左右する大きな事業となつてまいりますことから、オール東員町体制で臨みますが、具体的にその推進に当たっては、建設部内にこの事業推進に特化したチームを組織し、関係各課や開発事業者と連携しながら事業を進めてまいります。この専門チームの役割といたしましては、国・県・関係機関との連絡調整、事業者との協議調整、地権者や地域住民の皆様との調整や意見の集約、役場内での関係各課との調整など多く行つていかねばならないと考えております。いずれにいたしましても本町の一大事業でございますから、町民の皆様のご理解、ご協力を改めてお願い申し上げますとともに、私たち一同は不転の覚悟で臨むことをお誓い申し上げ答弁とさ

せていただきます。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 答弁いただきました。非常に熱い思いの答弁でしたので、すぐく私としても期待させていただきたいと思っておりますけれども、答弁を聞かせていただくと、まだまだ一体どういうものがこの地域に開発されていくのか、どういうものができていくのか、なかなかイメージしづらいところがありまして、もちろん中学校の移転も検討しながらということと、商業や福祉ゾーンもこのあたり一帯に設けるということですが、一体どれぐらいの規模なのかとか、どういったイメージのものを我々想像していいのかというのが大枠の部分だけで非常につかみづらいということがありましたので、いろいろ細かい部分も今から再質問で聞かせていただきながら、この市街地形成について掘り下げていきたいなと思っております。

まず1つ目なんですけども、商業施設をこのあたりゾーン一帯に造るというお話でしたけれども、やはり商業施設という形だけをお聞きしますと、どのような商業施設なのかというのが非常にイメージが湧きづらいと言いますか、商店街のような形のものを造るのか、大手のスーパーさんに来ていただくというような形をイメージすればいいのか、はたまた近隣でいえば、隣の大泉駅にあります「うりぼう」さんのような地域密着型のああいう商業施設をイメージしたらいいのか、一体どういうものをお考えになられているのかというところをご質問したいと思えます。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 基本的には先ほど申し上げましたように、積水ハウスがこのまちをどうしていくか。積水ハウスとして、この東員町にどう寄与できるかという絵を描いてからの話になると思います。基本的には積水ハウスにいろいろ宣伝をしていただいている、それ以上のまちづくり、これが積水のまちなんやというようなまちを自信を持って描いていただければと思っておりますが、基本的にはそれなんです。

我々が考えておるのは、そこへ融合させたいと思っておりますのは、先ほど言いましたように、歩いて暮らせるまちづくりというのを融合させていきたいと思っておりますが、例えば住んでいる人が一歩玄関を出たら、そこに郵便局なり銀行なり、それから身近なものが買えるスーパーなりがあるよね、それからちょっと食べる場所もあるしコーヒーを飲むところもあるしというような、そこへ人が集まってこられるようなまちというのが基本的に必要なんだろうなと思っております。

また、今ちょっと積水さんにもお願いしているんですけど、本町には宿泊施設がないわけですよ。だから例えばそういう宿泊施設についても、多分ビジネスホテルが建てば採算が合うと思っておりますが、そういうことも検討していただきたいということをお願いしております。そんな商業的なまちづくりが必要なのかなど。要するに、玄関を出たら日常的なことは何でもそろっているよというような、そんなまちづくり。そして医療関係でも現在、お医者さんが3名ほど具体的にここへ進出したいという希望をいただいておりますので、そういう医療モールみたいなものができるといいなということをおもっておりますが、本当に外へ出れば、自分

たちが日常的なことはその中で完結するようなものがそろっているよというようなまち、そこに楽しみのあるまちというのを我々としては考えていきたいなと思っております。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 先ほど答弁の中でもおっしゃっておられましたけれども、積水ハウスさんが描いてくるまちづくり構想を主体として考えていくというお話やったんですけれども、やはりまず我々東員町がどういったまちづくりをするのかというところが絶対の基本になってくると思うんですね。この東員駅周辺の開発においても、どういったまちづくり、住民の方々、町民の方々がやはり住みやすい形を我々がまず絵を描いて掲示して、それを元に積水ハウスさんに絵を描いていただくというのが僕は主体になってくる話やと思うんですね。ですので、この商業施設というところで僕がお話させていただいたのは、この5年、10年で東員町の買い物事情と言いますか、やはり商業施設、がらっと変わってきたいと思うんですね。大手ショッピングモールもできましたし、かといえば、ずっと地元根付いておったスーパーなどが撤退するというような形で、町民の方々が不具合に思うようなこともここ5年、10年でがらっと変わってきたり、本当にこのまちが10年前からは予想もしないような形にかわってきておりますので、やはり商業施設、生活用品、食料品など生活にかかわる部分、非常に住民の方に多いと思うんですね。なので、そのあたりの商業施設に関しては、しっかりとまちとしてどういった形でまちづくりを推進していくのかというのは、ここ大きくかかわってくるのだと思うんですね。

また僕自身がここで提案させていただきたいのは、先ほど宿泊施設の話もしていただいたんですけど、やはり観光という点で東員町は非常に2手も3手も遅れてしまっているのではないかなと思うんですね。宿泊施設がないのもそうなんですけれども、東員町の特産品というような形でPRしていくためのアンテナショップ、先ほどちらっと言いましたけど、大泉駅の「うりぼう」さんなんかは本当に地元密着型のような形で特産品などを置いています。そういうような形で東員町のアンテナショップというのをこの商業施設に組み込むというような形で、東員町のまちづくりをしていただけたらいいのかなと思うんですけど、このあたり町長どうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今アンテナショップという話がありましたが、そういった性格を持った店舗等のここへの立地というのは、実はそういうオファーもあります。できるだけ地元密着したそんなまちができるといいなというふうに思っております。実際問題、町内に店舗を構えてみえる方から、ここへ入りたいという、そんなオファーもいただいておりますし、今いろいろ話を承っているところです。そういったものを基本として、その中へ入れ込んで東員町のまちとして、外部資本ではなくて地元資本でできるだけまちというものができるといいなというふうに思っております。ただ、地元資本と言いましても、東員町内になかなかそんなたくさんものはありませんので、例えば近隣だとか三重県だとか、そういうものも含めて、できるだけ地域に根差したそんなまちづくりができるといいかなというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 先ほど町長おっしゃっていただいたとおり、地元密着という形で地元根付いたような形のまちづくりというのは僕自身も本当に期待したいなというふうに思っておりますので、商業施設なんか地元の方々が潤うような、そして地元の方々が満足していただけるような、そんな商業施設の方向性をぜひとも導いていただきたいなというふうに思います。

そして、この地域では住居系も大きく変化を遂げるというふうなご説明がありましたけれども、やはり先ほど答弁でもおっしゃっていただきましたけれども、団地内、笹尾や城山の高齢者の方々の受け皿のような形として、この団地内の循環を促すようなという形で前回もご説明していただきました。もちろんこのコンパクトシティ構想が実現すれば、一番メリットを受けるのは僕は高齢者やと思うんですね。歩いて全て生活できてしまう、本当に一番メリットを受けるのは高齢者の方やと思うんですけれども、なかなか高齢者の方が長年住んでいた家や地域を離れるという決断が本当にできるのかなというところは疑問に感じます。場所としても幼稚園・保育園・小学校そして中学校が移転するとすれば、本当に教育施設、学校施設というものが1つの場所に全部集まりますので、子育て世代の方々にとっても本当にうってつけの場所になるのではないかなというふうに感じます。ですので、今ありがたいことに東員町は本当に若者の方々、子育て世代の方々が非常に東員町に多く、この中部地域に関しては転入されてきておりますので、場所としては非常に子育て世代の方々がまだ多く来ていただける地域になるのかなと。そうすると、東員町でも今起こってます地域での人口の格差、子どもたちの人口の格差というのがまたこの中部地域、神田地域が非常に飛び抜ける、そういうような格差が起り得るのではないかなというふうに思うんですけれども、このあたりはしっかりとした町としての考えや対策がなければ、さらに格差を生んでしまう、そのように感じておりますけれども、町長そのあたりどのようにお考えですか。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） まず1点目の笹尾・城山地区の住み替えの話ですけど、数年前に東員病院さんが有料老人ホームを造られました。そのときに何人かの方が団地からの住み替えということをしたと聞いております。今度の場所は、その東員病院さんの有料老人ホームの場所よりも、うんと条件的にはいい場所になるというふうに思っております、そういう形のものでできれば、住み替えは1つの可能性、選択肢として、そういうことはあり得るのではないかなというふうに考えております。

それから子育て世代がもしそこへ入居された場合、子どもがまた増えるのではないかと、1つの地域へ集中するやないかというようなお話ですけども、それにつきましては、今教育委員会ともいろいろ話し合いをしまして、学校区の変更だとか、あるいはフリー学区の創設だとか、あるいはこの地域、今山田地域ですけど、ひよっとするといなべ地域へとか、例えばの話ですよ、これなるかならんかわかりませんが、そんなことも含めながら、いろいろなことを考えながら、学校としてあまり過剰にならない、集中しないような方策というのを当然我々と

しては考えていかなければいけないというふうに思っております。ただ、今議員ご指摘のとおり、この場所は子育て世代にはすごくいい場所になるというふうに思います。子育て世代ということは、例えばどこかへ通勤されるんでも車が要らないんですね、電車の駅がありますから、飲んで帰っても大丈夫というような地域になりますので、そういう点では子育て、そして自分が働くということに関して非常に便利な場所になるというふうに思っておりますので、ぜひそういう今の子どもが偏重しないような、そんな対策はしっかりと教育委員会と一緒に考えて取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 学校区の変更なども視野に入れながら、これから教育委員会と一緒に検討していくと、東員病院の有料老人ホームの住み替えも、今までにあったので、1つの選択肢としてこの場所を提供できればというお話でしたけれども、本当にこれ高齢者の方と子育て世代、そしてその子どもたち、3世代の方々が同じ1つのコミュニティの中で生活できるということは、みんなで見守り、支えあいのできる、そんな地域になれる可能性を秘めておると思いますので、いろいろ問題は多いと思いますけど、本当にこれを実現できるような形で、しっかりと町の方、そして教育委員会の方でも切磋琢磨して協議していただきたいというふうに思います。

そして、住居系でも先ほどお話しさせてもらったとおり、やはり子どもさん方、子育て世代の方々が多くここに来られ、そして子どもたちがここに来て、そして学校もここに移転するとありますと、本当に子どもたちの安全、そして通学路での安心が図られるのかどうかを私は非常に懸念しております。先ほどもお話しさせてもらったとおり、商業施設ががらっと変わったことであつたり高速道路ができたということもあつて非常にこの県道142号線沿いなんかは車の通りががらっと激しいものになったというふうに思っております。中学校の通学は今のところは自転車ですので、本当にこの駅前に中学校を移転して、子どもたちが自転車で通うとなったときに、今のままでは自転車ゾーンもない。そうすると高齢者の方々が来たときに歩道の方に乗り上げる自転車がいるかもしれませんし、また車がかなり多い時間帯ですので、接触事故なんかも大いにあり得るのではないかなというふうに思っております。またこの地域、今のところは本当に街灯という街灯もほとんどありませんので、夕方、下校時には真っ暗になる。本当にこの場所の安全・安心ということを考えるのであれば、自転車ゾーンであつたり歩道の整備、たくさん予算を投じていただいて安全・安心の確保をしていただかなければならないと思いますが、教育長はそのあたりどのように考えていますか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えさせていただきます。通学路というのは、基本的に各学校が児童生徒の通学の安全の確保と教育的環境維持のために指定している道路であります。その指定の手続は、私ども教育委員会がこう行きなさいよというのではないんです。指定の手続は各学校が決定し、それを教育委員会が承認するという形をとっております。そしてそこには当然通学路の安全上の不備によって事故が起きた場合は両者、学校と私ども教育委員会にそ

の責任があるということですので、私もぜひその駅前のところには中学校が来るように望んでおりますけれども、そういうような状況ができた場合には、万全を期するというのは私どもの責任としてであると認識しております。以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 少し質問させていただきたいんですけれども、東員町には東員町通学路安全推進会議というものがございます。これは私も資料をいただきまして目を通させていただきますと、年に3回、いなべ警察であったり、もちろん教育委員会の事務局の方も参加していただいて、そして建設課の方も入っていただいて年に3回、通学路の安全をしっかりと守るための協議がされておると思いますが、これは各小学校には設置されておると思うんですけど、中学校2校には設置されているのでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えさせていただきます。

中学校の通学路は対象になっておりません。小学校ということになっております。

以上です。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） もちろんこの通学路安全推進会議が設置する理由があったと思いますので、そのときに中学校もこれは対象にはなっていなかったということになるんですかね。でしたら、ぜひともこの通学路、これから東員第一中学校が移転するというのであれば、通学路が本当にがらっと変わります。ですので考えなきゃいけないところが学校単位で考えておいたら追いつかないというふうなところもあると思いますので、もちろん移転がこれから固まってくるということなのであれば、ぜひともこの東員町通学路安全推進会議を中学校の方でも設立していただきたい、そのように思っておりますけど、どうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えさせていただきます。

安全プログラム改善会議というところに中学校をどう位置付けるかというのはちょっと検討課題だと思うんですけども、当然先ほど私言いましたけれども、中学校が移転しました。その移転に関しての通学路に関しては、当然選定するときに私ども教育委員会、学校、いろんな人のご意見を聞きながら安全確保に向けて頑張っていきたいなと思っております。以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） もちろんこれ通学路を選定するときには、たくさんの方の意見を参考にさせていただく必要があると思うんですけども、これはもちろん通学路を決めたからといってこれは終わりではなくて、やはりその後子どもたちがその道を通って本当に安全が保たれているかどうかというのは毎年毎年僕はチェックする必要があると思います。この小学校の通学路に関しても、議事録を見させていただくと、それこそ柵に小さな穴が開いていて危険であるとか、本当に細かなところにまで目を光らせていただいて、この通学路の安全が確保され

ている。すごいなというふうに思いました。これがこれから新しい通学路になる中学校、危険箇所はたくさん使う中で挙がってくると思いますので、そういうのをしっかりと検討していただくためにも、このような形で、小学校と同じ、新しくというよりは、もう小学校があるので中学校も同じような形でしっかりと目をみはれるような組織という形を私は作っていただきたいなというふうに思っております。そのあたり事務局長どうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 小川事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） お答えさせていただきます。

議員が申されたように、仮に東員第一中学校が役場の北に来るということは、大きな流入というか、生徒たちのルートも当然変わってきますし、場合によっては速度規制とかカーブミラーとか道路の拡幅とかいろんな交通安全上の対策については、その委員会でするかどうかは別として、いろいろ検討はしていかなければならないというふうに思っています。ただ今教育長が申しあげましたように、交通安全プログラムの方は、国の努力義務というか小学校を対象に設立しなさいという経過があつて、今は中学校を入れていませんが、場合によってはそういう拡大をしていくなり、どういう形になるかは別として、いろいろ検討させていただきたいと思えます。以上です。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） ありがとうございます。やはり子どもたちの安全確保というのは、何か事故や犯罪があつてから対策、改善するのではなく、事前にしっかりと協議していただいて準備をしていただく、それがあつてこそ初めて安全、そして安心が守られるというふうに思えますので、何かあつてからではなく、まず何もないような形で対策していただければというふうに思えますので、ぜひとも検討の方、よろしく願いいたします。

それでは私の一般質問では、いつもながら最後はやはり町長とお話させていただくというのが恒例行事になってますので、町長としっかりとお話させていただきたいなというふうに思えます。東員駅周辺の開発となりますと、これは本当に大きな事業であります。全国的にもこのコンパクトシティ構想、開発という意味では、なかなか前例がない。大きい青森市や富山市というふうな形の事例は私自身も勉強させていただきましたけれども、なかなか大きい市町での事例がない。なのでこれを成功させればとんでもないものができ上がるのかなというふうに思っております。

そのためにもやはりお金がかかる、人が動く、そして時間がかかるということが非常にネックになってくるのかなというふうに思えます。これは20年かけてやる大きな事業かなというふうに私は考えております。町長、20年後となると何歳になられるかわかりませんが、非常に時間がかかる。それを最後まで責任持ってやれるのかどうか、町長にお伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 20年後はおらんかもわかりませんが、ちょっと命との相談というのはご勘弁いただきたいんですが、少なくとも今議員がおっしゃったように、この事業は

三重県で初めての事業でございまして、後にも先にももうこれしかないというふうに思っています。先ほども申し上げましたように、三重県のマスタープランが変わるまでにこれを仕上げないといけないということになってますので、先ほども不転の覚悟と言いましたけども、そのように考えております。

一応、民間開発エリアについてはおおむね10年ということ考えておまして、北エリアを入れますと20年ぐらいということになるのかもわからないなというふうに思っています。どういう方向で行くか、どういう方針で行くか、どういうまちにするか、これをしっかりとこの一、二年で固めて将来に悔いを残さないような、そんなまちづくりの方向性をしっかりとしていきたいというふうに考えております。完成するまで責任どころか命までわからないという状況でございまして、それは若くとも年をとっていても、明日いつ何があるかわからないという、今そんな世の中ですので、そのためにしっかりとした構想、町民の皆さんのためになるような、そしてここへ来れば楽しみがある。町民の皆さんが集まってこられるような、そんなまちづくりの構想というのをしっかりと作り上げていきたいというふうに思っていますので、これは先ほどから申してはいますが、我々だけではできないことではないので、町民の皆様みんなにご理解いただいて、皆さんで作上げる、そんなまち、東員町の顔となるまち、みんながここへ来れば何かあるよなというように、わくわくするようなまち、それを町民の皆さんみんなで作上げるということでご協力、それから参加をいただければなというふうに思っています。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 1年、2年である程度方向性を決めてというようなお話でしたかね。そしてみんなで作り上げると、僕が一番最後にまとめて言いたいことを全て町長に言われてしまったかなというふうに思っておりますけれども、まさに町長の言われるように、あくまでもこのコンパクトシティ事業、議論が先行してしまっていて、本当に具体的に、じゃ一体これを実現するとなったら有効性としてどのような数字が挙がってくるのかということまで、結局のところ考えが行き着かず、途中で断念してしまうようなことも大いにあると思うんです。ですので、先ほど町長が言われたように、計画・構想、これを明確にしっかりとしたものを作っていただいて、町民の方々に掲示していただくことがまず最優先にあるのかなと。もちろん時間をかけてじっくりとということもそうなんですけれども、スピーディにやっていただくことが重要かなと思っております。

この構想・計画、もちろん積水ハウスさんといろいろとお話していただく中で突き詰め合わせていただかなきゃなりませんけれども、いつまでに我々にこの構想を掲示していただけるのか。いつというのを明確に言っていただけませんか。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 必ずこれまでというのはなかなか言いづらいんですが、少なくとも来年、要するに1年後ですね、1年後までにはある程度の構想ができていないと先へ進めませんので、少なくともですよ、1年後にはこの地域がどうなるかというのは、それまでにはお示しできるというふうに思っております。

これからスピードアップして、そういう構想も検討してまいりますので、今年中にとか、今年の10月とか、そういうのはちょっとご勘弁いただきたいんですけど、少なくとも1年後にはそういうものができているというふうにご理解いただければありがたいなというふうに思います。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 1年後という形でした。来年の7月に三重県の都市計画審議会の方でマスタープランが改定。それまでにはぜひとも市街地形成については進めなきゃいけないと、住民の方々にもそれまでには説明しなきゃいけない。1年後となりますと、今のままで。来年の3月までにという解釈になるんですけども、それで、その年の7月までに全ての合意を得るというのは非常にスパンが短いのではないかなというふうに思います。せめて今から半年、半年間で突き詰めて、時間は本当にタイトですよ。半年間で突き詰めないと、本当に地域の方々、町民の方々にご理解いただくというのは難しいんじゃないかなというふうに思いますけど、半年でどうですか。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私が言っているのは、もうある程度完全な完成したものというイメージで今話をさせていただいているんですが、それまでに部分部分というか、こういう方向でいきたいと思いますがどうですかねというような、そんなご相談はさせていただきながらやるということで、当然完全版ではないものは、節目節目でお示ししていかならんというふうに思っています。ですから、多分完全なものを出してしまうよりも、こういうことを考えてますがどうですかねという出し方をするべきではないかなと我々はそう思っているんです。完全なものやったらもう変わらんやないかでは、それはしょうがないので、こういう構想でいきたい、どうですかねというご相談をかけながら、節目節目でそういう構想をお示ししていくというふうに考えておりますので、1年ぐらいしたらある程度完成したものができるとはではないかという意味で1年ぐらいということをお願いしたのであって、それまでに相談させていただく、節目節目ではある程度の構想は出していけるというふうに思っています。

○議長（島田 正彦君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 町長が20年後ごろを見据えて、これからやられるとなると、先ほど言われたように、自分の体の方も気を使いながらというところで、どうなるかはわからないということでしたので、そのためにも町長の気持ちをしっかりと町民の方々に訴えかけていただいて、そしてしっかりと計画・構想があれば、これはみんながその構想に従って最後までやり遂げられる明確な道筋になりますので、やはりこの計画というものをしっかりと作っていただきまして、それを基に住民の方々、町民の方々にしっかりとご理解、ご協力いただく、そのような形で進めていただきたいなというふうに思いますので、ぜひとも期待させていただいてお願いさせていただきたいと思います。

国の方でも2013年ごろから少子高齢化社会に対応するために、このコンパクトシティの推進というところに力を入れ始めて、法改正の方もなされております。しかし、勘違いしては

いけません。あくまでもこの事業は高齢化社会に対応するための事業であって、少子高齢化問題を食い止める事業ではないということでもあります。ですので、総合的なまちづくりに取り組んでいただかなければならないということは、これは言うまでもありません。しかし、この駅前開発が本町にもたらすメリットというのは多大なものがあります。駅周辺の市街地形成を実現させるために、やはり一番大事なことは、先ほど町長もおっしゃっておられました地域の方々、そして町民の皆さんの協力がなければ絶対に成功はいたしません。そのためにも私が再三お話しさせていただきまして早急に将来設計、そして事業計画というものを策定していただきまして、皆さんに公開していただき、みんなが手を取り合う、先ほどオール東員と町長言っていただきましたかね。オール東員、町民一体となって取り組むようなまちづくりをぜひともお願いさせていただきまして、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。